

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をそれぞれが再確認し実現に向けて努力しています。	開設時から作成された理念を基に、地域密着型サービスの意義や役割を考え、事業所独自の理念を作り上げ管理者と職員は共有している。年度替わりの職員会議では理念に添った目標の再確認や毎月のカンファレンスでの振り返りの機会を持ちながらサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センターが主催しているサロンや障害者施設と交流したり、民生委員ボランティアによる「生け花クラブ」に参加しています。	地域主催のコミュニティーサロンやボランティアによる「生け花クラブ」も定例となっており、地域の行事や散歩、催し物に参加しながら近隣の方々と交流が図られている。また、実習生の受け入れも積極的に行っているなど、地域の方々とは日頃から気軽に挨拶を交わし合える関係性が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居申し込みや見学の際、介護に関する相談など応じる用意がある旨をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、民生委員、地域包括支援センターなどに出席していただき、二ヶ月に一度開催しています。地域の行事の情報をいただいたり、サービスにおける意見交換を行っています。	会議は併設の特養と合同で定期的に行われ、状況報告及び事業所の取り組み内容や課題について意見交換を行っている。会議内容については、月毎のカンファレンス時に職員に報告し周知を図っている。	運営推進会議は定期的に行われ、委員からは事業所の状況報告と共に助言をいただいているが、今後は、出席されない家族へも、会議内容や検討事項等を報告すると共に、意見等をいただくことで、より身近な会議とすることをを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて市役所の担当課や包括支援センターと連絡を取り合い、相談に乗っていただいています。	市担当課職員、包括支援センター職員とは日頃から連絡を取り、運営推進会議によらず、市主催の会議、研修会など積極的に参加し、折に触れ何でも相談できる良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが5階にあり、安全対策のため施錠をしています。家族には入所申し込み段階から説明をしご理解をいただいております。	身体拘束については契約時に家族に説明し、理解を得ている。施錠についても全体的な業務の見直しを行うなど、なるべく施錠をせず、利用者の尊厳を守るための認識を深め、利用者の動きを見ながら、さりげなく移動の付き添いを行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待に関する勉強会に参加しています。研修内容をカンファレンス時に共有し意見交換し、防止に努めています。	事業所では年1回、法人主催の「ストレスチェック」を実施し、高齢者虐待防止関連法に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。勤務形態の見直しや職員が心身ともに安定して業務に就けるよう様子を見ながら声をかけ、お互いに相談しやすい関係づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて包括支援センターに相談しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安や疑問がないか確認しながら十分に時間をかけて説明を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に意見箱を設置していますが、家族が来園された時や電話での近況報告の際に伺っています。また家族、利用者にアンケートを実施しています。	利用者には日頃の何気ない会話の中から意見や要望を聞くようにしている。また、意見箱の設置や家族面会時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、年1回「家族、利用者アンケート調査」を実施し、ミニカンファレンスで話し合い意見や要望を取り入れ運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやカンファレンス時に意見を出し合っています。また管理者は話しやすい関係作りを心掛けています。	管理者は毎月のカンファレンスや申し送り時に、意見、要望、提案を聞く機会を設けている。また、取り組み記録の活用や担当職員の声に耳を傾け、常に話しやすい環境づくりを心がけ、共に話し合いながら意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いの仕事についてサポートしたり、それぞれの問題点や悩みを聞き仕事内容を改善しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのスキルアップが図れるよう資格取得の機会を大切にしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の参加や実習の受け入れ、意見、情報交換の場を設けています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人の不安や要望をゆっくりと傾聴し思いを受け止めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたり、これまでの経緯や苦勞についてゆっくりお話を伺うようにしています。またご家族の思いや要望を聞き、グループホームとしてどのようなことができるか丁寧に説明していくことで良い関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族、その他周囲から情報収集し、ニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとって生活の場であるということを忘れず、職員がともに暮らしているという意識でケアにあたっています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や状態の変化時には近況を報告し家族と話し合うようにしています。また夏祭りなどのイベントには家族の参加を呼びかけています。	家族へは3ヶ月毎に広報誌と共に、利用者の近況や日々の暮らしぶりを写真に載せ送付している。また面会時には和やかにゆっくり過ごしてもらえる雰囲気づくりを心がけている。病院受診、外出、外泊、行事参加などの機会もあり、家族、職員共に本人を支えていく姿勢で、今後もより良い関係性を築いていくための支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、昔から行きつけの美容室に通ったり、ご家族の墓参りを続けています。また馴染みの場への外出も取り入れるようにしています。	入居前に家族から馴染みの人や場所に関する情報を把握している。家族の協力を得て、在宅時から利用してきた美容院への継続的利用の支援や馴染みの知人での交流継続、近くの商店への買い物や近隣の散歩、家族と温泉旅行、実習生の来所など、親しんできた関係性を大切に支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が励ましあったり、作業方法などを教えあったりと声を掛け合い日々の生活を支えあう姿が見られます。トラブルになりそうな場合や難聴でコミュニケーションが取りづらい方には職員が仲介に入るなどし、円満な交流が図れるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人、家族からの相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、表情や会話から思いを探り一人ひとりの希望、意向、思いの把握に努めています。必要に応じカンファレンスにて情報共有し、ケアプランに反映させています。	入所時に詳細なヒアリングを行っており、入所後は日常の会話などを通じ、表情や態度にも気を配り、本人の意向や思いの把握に努めている。また、他の施設等から移行された場合においても、スタッフ全員で観察の目を向け、「生活記録」を取って共有し、問題があればカンファレンスで検討し、ケアプランに反映させている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、入所前に使っていたサービスの担当者からこれまでの暮らし等を聞いて把握に努めています。	入所前の自宅訪問時に本人も同席の下、家族から、普段の生活状況や地域との交流の状況について聞き取りを行っている。サービス利用の経過等については、担当していた介護支援専門員や利用施設から聞き取りを行っている。また、施設の利用開始後においても、家族や友人等の訪問の際に取得した情報を、生活記録に取り、スタッフで共有し、より良い生活に繋がるよう努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースを大切に支援したり、現状の把握に努め、記録やカンファレンスにて情報共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中なら得た本人の意見や意向をカンファレンスで話し合い、また家族や関係職種と相談しプランに繋げています。	3ヶ月ごとに各担当者が、ケアチェック表の見直しを行っている。支援経過を踏まえ、改善の必要があれば、カンファレンスに課題を提出している。カンファレンスは毎月1回行われており、ご家族や関係者などからの意見も踏まえ、本人の現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子については生活記録に、ケアの実践について支援経過記録に記入し情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	福祉用具や併設施設の設備を活用し必要なサービスが適切に提供できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する授産施設のイベントへの参加や民生委員ボランティアの受け入れなど行っています。また運営推進会議を活用し地元地見者、包括、民生委員などからアドバイスをいただいております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ病院は本人、家族の希望に応じ、協力病院への受診支援を行っています。内科以外の受診は家族に依頼していますが、必要に応じて付き添ったり、状況を手紙にして報告しています。	かかりつけ病院は本人、家族の希望に応えている。協力病院へは、家族の同行を基本としているが、難しい場合は職員が同行している。家族が同行した場合、家族から状況を聞き取って診療記録に記入し、情報共有も行っている。必要に応じ、職員が付き添って医師への情報提供も行っており、適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて協力病院の看護師に相談したり、併設施設の看護師に助言をしていただきながら支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院のケースワーカーや看護師と情報交換をし、退院に向けて支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に係る指針を説明し同意を得ている。状態の変化時は本人、家族と話し合いできる限り希望に沿ったケアを行えるよう支援していきます。	契約時に、事業所での重度化にかかる指針を説明し、同意を得ているが、入所中の状態の急変時等への対応については、本人、家族とも十分に話し合い、できる限りの支援を心がけている。また、必要に応じ、他施設との連携を図り、安心が得られるよう支援に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設の看護師より事故発生時の対応について研修を行ってもらっています。AED操作は毎年園内にて研修が設けられており、参加しています。	全職員が法人の病院で定期的開催される救急救命講習や園内で毎年実施されるAEDの操作訓練に参加し、緊急時の対応に備えている。また、ノロウィルスなどの感染症のリスクについて、マニュアルを作成し研修も実施している。看護師によるアドバイスも受け、実践力の習得に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力の下、園全体で避難訓練をおこなっており、またグループホーム独自でも避難経路、手順の確認をして、非常食の点検などを行っています。	消防署の協力の下、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、備蓄の点検や避難経路の安全確認なども的確に行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシーを損ねない会話や対応を心掛けています。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、認知症の対象者への接し方や言葉遣いなども適切である。カンファレンスの場においても、コミュニケーションのとり方やプライバシーへの配慮などが適切に行われているか、確認するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者の「～したい」という思いを大切にしています。また利用者アンケートを取り希望を表現しやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな日課はありますが、利用者の体調や気分に配慮し、利用者に合わせた支援ができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご自身で選んでもらったり、散髪の時期も本人と話しながら決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食材を買い出しに行ったり、できる方には食材を切ったりなどお手伝いいただいています。メニューも旬の物を取り入れたり、イベントに沿った献立にしたりと工夫しています。	職員と一緒に食材の買出しに出かけ、自ら食材の品定めを行うなど、買い物を楽しんでいる。調理においても、生き活きた様子で職員の手伝いをしている様子が窺える。また、イベント時には、手作りお菓子も添えたりするなど、食事を楽しむための工夫もなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調や嚥下能力に合わせて食事形態や量を工夫し、摂取量もチェック表にて把握しています。必要な方には栄養補助食品も活用しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしています。必要な方には訪問歯科の受診支援を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したり、サインを見逃さないようにしています。また昼夜で下着の種類を変えることで失敗を減らし、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	排泄チェック表の活用により、一人ひとりの排泄パターンを把握している。転倒防止のため、夜間のみポータブルトイレを活用したり、排泄用品の組合せを工夫したり、自立支援が無理なく円滑に進むよう、様々な工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から乳製品や食物繊維が多く摂れるような食事に努めています。便秘傾向の方には漢方薬や下剤にて排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の体調や希望に沿って行うようにしています。入浴剤を使ってくつろいでいただいたり時々気分転換に大浴場へ行き銭湯気分を味わっています。	入浴日や時間の指定はなく、本人の希望による対応がなされている。私物のタライやスポンジなどの小物も個別に管理されており、浴室からの眺望もよく、入浴を楽しめる環境が整っている。体調不良で入浴ができない場合は、清拭等で代替している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使い慣れた寝具を使用したり、室温や照明の明るさも本人に合わせて気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に薬剤情報提供書を添付し、いつでも目を通せる様にしています。また全てとはいきませんが主病に対する薬の名前、用量・用法は概ね理解しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	余暇活動はみんなで楽しむものと、折り紙や本など個々の好みに合わせたものを行っています。また料理や裁縫、たたみものなど得意分野を生かしたものを取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に近隣のスーパーに買い物に行ったり、季節に合わせた外出行事を計画しています。また天気良ければ散歩をしたり、家族の協力の下、外食、外泊、墓参りなどの支援を行っています。	食材や日用品の買出しに伴う外出が、日常的に行われている。年間行事では、利用者の希望なども踏まえ、四季折々の花見や名所巡りが行われている。借り上げた大型車両を利用しており、車イスの方も参加しやすい体制を整えている。個別の外出支援では、家族の協力を得て、外泊、外食、墓参りなどにも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて、自身の財布の管理をお願いしています。外出時に買い物する際、支払い支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛ける支援をしたり、年賀状書きのお手伝いをしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には利用者が作った作品展示したり、外出の写真を貼っています。入口には季節ごとの飾りつけをしています。また室温・湿度に配慮したりテレビの音や職員の動き回る音にも気を付けながら居心地良く過ごせる工夫をしています。	共用空間は、毎朝、職員が清掃を行い、月1回、業者によるワックス掛けもなされ、清潔が保たれている。利用者の作品や季節ごとの飾りつけもなされるなど、リラックスして過ごせる雰囲気が感じられる。特に職員が笑顔を絶やすことなく、気配り、心配りが行き渡っており、和やかな雰囲気を醸し出している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置いてゆったり過ごせる空間を作っています。また窓際にもソファを置いて、一人でゆっくり外を眺められるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れた物や好みの物を持参していただいています。配置も本人や家族と相談しながら居心地良く過ごせるようにしています。	居室は、本人による主体的な清掃が毎日行われており、手の行き届かない部分は、職員が補うことで、清潔に保たれている。居室内には、使い慣れた家具や小物などが持ち込まれており、自室とのギャップを感じさせないよう、配慮がなされており、持ち込みに当たっては、安全面への配慮もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	立位の不安定な方にはベッドに手すりを設置して安全に立ち上がりができるよう支援しています。またトイレや自室が分からなくなる方の為に張り紙や表札を掲示しています。		